

第 412 回  
日本泌尿器科学会新潟地方会  
《プログラム・抄録》

日 時：令和 7 年 3 月 8 日（土）15 時 00 分～17 時 00 分  
会 場：ホテルオークラ新潟 4 階『コンチネンタル』  
新潟市中央区川端町 6-53  
TEL：025-224-6111

次回 第 413 回 新潟地方会  
（甲信越合同地方会） 予告  
日時：令和 6 年 6 月 7 日（土）  
会場：（予定）松本市  
演題申込期限：令和 6 年 5 月 9 日（金曜日）

※すべて PC のみの発表とさせていただきます  
Macintosh の先生はコンピューターをご持参ください。

※一般口演時間は、7 分、討論 3 分（時間厳守）

日本泌尿器科学会会員証を必ずご持参下さい

〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757  
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野(泌尿器科学教室)内  
日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025 (227) 2289/FAX：025 (227) 0784

会長 冨田 善彦

15:00~15:05

開会の辞

日本泌尿器科学会新潟地方会会長

富田 善彦

15:05~15:35

座長 ビリーム ウラジミル

1. 当院で経験した酸性尿酸アンモニウム結石の3例

済生会新潟病院 泌尿器科<sup>1)</sup>、済生会新潟病院 教育研修センター<sup>2)</sup>、新潟市民病院 泌尿器科<sup>3)</sup>  
保坂仁哉<sup>1)2)</sup>、石川晶子<sup>1)</sup>、結城恵里<sup>3)</sup>、車田茂徳<sup>1)</sup>

酸性尿酸アンモニウム結石は先進国では非常に稀な尿路結石成分である。当院で経験した pure な酸性尿酸アンモニウムによる上部尿路結石の3例について、文献的考察を含めて報告する。症例は37歳、49歳、63歳のいずれも女性で、経尿道的尿管碎石術または経皮的腎碎石術を行い、結石の成分分析で上記と診断した。全例で摂食障害や電解質異常等の合併症を有しており、再発予防には背景因子の検索や対応が必要と考える。

2. 済生会新潟病院での ECIRS 初期経験

済生会新潟病院泌尿器科  
石川晶子、車田茂徳

Endoscopic combined intrarenal surgery (ECIRS) は、経皮的腎碎石術に経尿道操作を併用する手法である。2024年度よりトラクト作成困難が予想される症例を中心に ECIRS を開始したため、初期症例5例につき報告する。また、2024年1月~2025年1月に従来の経皮的腎碎石術を行った37例と手術内容や治療成績につき比較検討した。手術時間の延長や Grade 3以上の有害事象の増加は認めなかった。

3. ハイドロゲルスペーサー・金マーカー留置術；日帰り手術の経験

会津クリニック<sup>1)</sup>、竹田総合病院 泌尿器科<sup>2)</sup>、放射線治療科<sup>3)</sup>、会津中央病院 泌尿器科<sup>4)</sup>、放射線科<sup>5)</sup>  
玉木信<sup>1)</sup>、細井隆之<sup>2)</sup>、清水栄二<sup>3)</sup>、長澤正人<sup>4)</sup>、上田貴之<sup>4)</sup>、梅宮和真<sup>5)</sup>

会津地域では前立腺癌の根治放射線外照射療法でのハイドロゲルスペーサー・金マーカー留置術施行施設が無かったため、我々は2024/1/5から同手術を外来手術として開始し2025/2/10までに39例経験したので報告する。麻酔は径会陰式にキシロカイン注0.5%20mLを2倍希釈で局所麻酔に使用、ペンタゾシン15mg点滴、リドカインゼリー2%を肛門内に使用した。痛みの術後問診では麻酔の痛みよりも手術の痛みは同等以下であった。外来手術として継続可能と考えられた。

15:35~16:15

座長 ビリーム ウラジミル

Short lecture

1. Acidic Microenvironment Enhances Cisplatin Resistance in Bladder Cancer via Bcl-2 and XIAP

(*Current Issues in Molecular Biology*. 2025; 47(1):43. <https://doi.org/10.3390/cimb47010043>)

Department of Urology, Division of Molecular Oncology, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

Kaede Hiruma, Vladimir Bilim, Akira Kazama, Yuko Shirono, Masaki Murata, and Yoshihiko Tomita

腫瘍周囲微小環境の酸性化は、複数の癌種において治療抵抗性や予後不良と関連することが報告されている。本研究により、Bcl-2とXIAP発現の活性化がアポトーシスおよびオートファジーいずれの細胞死をも抑制しうる事が明らかとなった。動物実験では、アシドーシスの治療を行うことで、腫瘍周囲のpHが上昇し、治療効果の改善に結びつくことが報告されている。アシドーシスの是正により、膀胱癌のシスプラチンへの感受性を高めることが期待される。

2. Cleveland Clinic での留学成果報告  
新潟大学泌尿器科 風間明

2023 年 1 月から 2 年間、米国の Cleveland Clinic Glickman Kidney and Urology Institute へ留学した。その間、腎部分切除術の権威である Dr. Steven Campbell のもとで、腎実質体積；Parenchymal Volume Analysis に注目した研究を行ってきた。腎部分切除術後の腎機能に影響を与える因子および、腎の阻血方法・阻血時間が機能回復に及ぼす影響について報告する。併せてクリーブランドでの留学生活についても紹介したい。

《 休 憩 16：15～16：35 》

16：35～17：00 日本泌尿器科学会新潟地方会総会